

Kumamoto University Library Bulletin, No.14, June. 1996

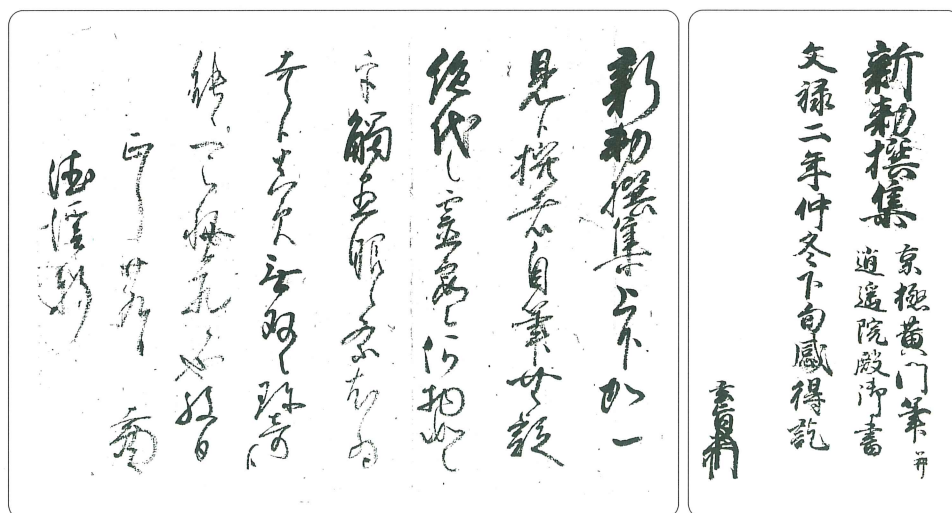
- □と工：2人の寅彦と図書館

熊本大学附属図書館寄託永青文庫の貴重書（二）

- 伝藤原定家筆『新勅撰和歌集』上下二冊

学術情報提供システム紹介

- MEDLINE I



〔 I 〕 永青文庫蔵『新勅撰和歌集』添状

料紙はいずれも楮紙。添状をもつ『新勅撰集』を文禄2年仲冬（11月）下旬に入手した細川幽斎が、京極黄門（藤原定家）筆の『新勅撰集』であり、添状は逍遥院殿（三条西実隆）の書である旨を包紙にしたため、中に添状を取めている。縦28.2センチ、横46.2センチ。

ロとエ：2人の寅彦と図書館

草野隆夫

この奇妙なタイトルは何と読ませるのか？^ロと^エなのか、^ロと^エなのか書いている私自身も分からない。この“ロとエ”と下にある写真は深い関係にあるのである。見る人が見ればすぐに分かるだろうが、これには五高在職中の夏目漱石が写っている。しかし問題にするのは夏目漱石ではなく、最後列の右か左の寺田寅彦である。寺田寅彦は一人しかいないのに右か左と書いたのには一応の典拠があるからである。左端としているのは“漱石写真帖”⁽¹⁾であり、右としているのは“龍南の青春賦—写真集・五高100年”⁽²⁾である。両方の写真集に出ている漱石、寅彦の写真は各人の位置、顔の向き方から全く一致しているので、後年に出版された“龍南の青春賦”が“漱石写真帖”の写真を拝借したものであろう。

只説明が右と左に分かれていて、どちらかが単純な印刷ミスをしただけである。タイトルにしたロとエは漢字右と左のロとエから来ている。この間違いに気付かせてくれたのは金沢大学資料館にいらっしやる^{アリタ}在田さんと云う方である。

在田さんは四高・五高で教鞭を執った須藤求馬教授

の事を研究していらっしやるが、この在田さんから須藤教授は五高時代、漱石と一緒に山鹿への修学旅行⁽³⁾にも共に行っているのだから、漱石と一緒に写った写真でもないか探してくれないだろうかと云う依頼があった。残念ながら写真はおろか龍南会雑誌にも須藤教授の論文はなかったが、いろいろな写真を探しているうちに“漱石写真帖”と“龍南の青春賦”であれと思った次第である。“漱石写真帖”は最後列左端が寺田寅彦としており、“龍南の青春賦”は右端が寺田寅彦としている。両方を見ない限りどちらかのミスには気がつかないまま過ごしてしまう。論理的根拠を必要とする問題ではないので信じこんでしまうのである。怖い事ではある。

私が問題にしたいのはこの悪意のない右と左の間違いではない。問題にしたいのは質の問題にし、それを図書館に当てはめてみた場合である。大学の図書館であるので利用者の大部分は学生であるが、学生は毎年々々図書館に対しては真っ白の状態⁽⁴⁾で入学してくる。一方近年の図書館の情報の多様化は著しいものであり、数年前までであったカードの時代はとっくに過ぎ去って



11 明治32年6月の教授陣と生徒 中央列の右から2人目は夏目漱石、最上段右端は寺田寅彦で、師弟が同時に写っている写真は非常に珍しい。

- 15 -

慮をいただき、大変お世話になりました。有難うございました。

この場をかりてお礼申し上げます。

(注) 図書の検索に過去のカードはまだ利用しているが、現在は図書館用にはカードの作成排列はしていない。

- (1) 漱石写真帖 51番 松岡 譲編 第一書房 1929年刊
- (2) 龍南の青春賦—写真集・五高100年 15頁 下段 写真集・五高100年編集委員会編 五高同窓会発行 昭和62年10月刊
- (3) 四高考古資料と北陸人類学会 在田 則子著 —金沢大学資料館だより 第7号 10頁
- (4) 寺田 寅彦全集 月報 第11号 5頁
(くさの たかお 前附属図書館専門員)

第五
—

第五高等學校卒業生記念寫眞 明治三十二年六月撮影

第三列右二人目漱石 三人目黒本稼堂氏 六人目奥大一郎氏 九人目山川信次郎氏

第二列 五人目長尾雨山氏 七人目中川元氏 八人目櫻井房記氏

最後列左端寺田寅彦氏

資料左は漱石写真帖 (1)

上は龍南の青春賦—写真集・五高100年 (2)

ると云ってもよいであろう。(注)この多様化、発達した情報をいかに会得した状態で職員は学生に接しているかを問題にしたいのである。“漱石写真帖”のままの状態、“龍南の青春賦”のままの状態で学生に接するのか、即ち限られたままの情報、低いレベルのままの情報を学生に教えるのか、それとも両者を知った上での情報、高いレベルの情報を学生に教えるのかである。右を教わった学生はずっと右を信じ、左を教わった学生はずっと左を信じるであろう。この一人よがりの知識が怖いのである。自分が無知であると言うことに気が付かないまま学生に接するのが怖いのである。願わくば高度の知識を持った状態で利用者に接してもらいたいものである。この為の研修研鑽を惜しまず、学生には図書館にはよく行き、利用したものだと言う憶いをもって卒業してもらえば、図書館人としてこれに勝る喜びはない。

ちなみに本当の寺田寅彦は最後列向かって左端(4)であり、漱石は前より3列目向かって右から2人目である。

この号が発行される6月は私は既に退職しているが、私にまでスペースを与えてくれた編集委員にお礼を申し上げます。又 在職中は相貸を担当していましたが、学内の各教室の教官や事務の方々のみならず、学外も北は北海道から南は琉球の図書館まで、ご協力、ご配

本学教官寄贈著書紹介

上西川原 章 教授(養・ドイツ語)

ゲーテ時代の生活と日常

証言と報告 1750-1805年

ペーター・ランシュタイン著

上西川原 章訳

法政大学出版社 1996. 4

富樫 貞夫 教授(法・民事法)

水俣病事件と法

富樫 貞夫著

石風社 1995.11

柏木 潤 教授(工・知能計測制御システム)

M系列とその応用

センシング/認識シリーズ 第8巻

柏木 潤著

昭晃堂 1996. 3

自動制御

柏木 潤編著者

朝倉書店 1995. 9

熊本大学附属図書館寄託 永青文庫の貴重書 (二) 伝藤原定家筆『新勅撰和歌集』上下二冊

荒木 尚

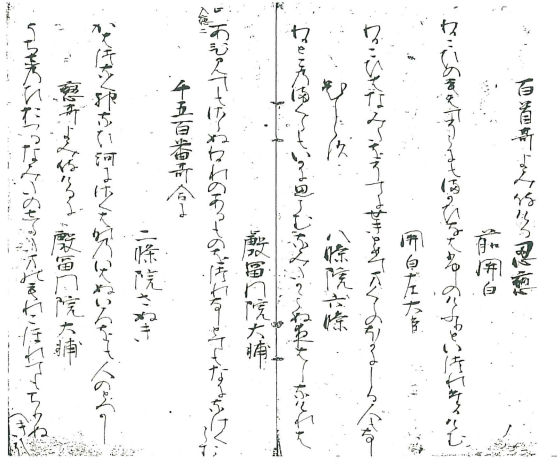
細川家歴代のコレクション永青文庫の中でも、初代の幽斎（藤孝）が収集した文学書は、『古今和歌集』の秘伝を受けて歌道の家元に連なった人の営みだけに重

要なものが多い。今回とりあげる『新勅撰和歌集』もその一つである。

『新勅撰和歌集』は後堀河天皇が貞永元年(1232)6月、藤原定家を単独の撰者に指名して撰修させた第9番目の勅撰和歌集である。この時、定家は71歳、念願の権中納言に任官した年であった。しかし、その撰進作業は順調には進まない。讓位した後堀河院に草稿本を進入したものの院は23歳で崩じ、撰集の業は中断、さらに後鳥羽院・順徳院ら承久の乱(1221年)に關与した人びとの歌百首を切り捨て、また新たな歌を入れることなどがあって、文暦2年(1235)3月、ようやく完成した。このように複雑な曲折を経て成立した『新勅撰和歌集』であるが、『新古今和歌集』の花を捨て、実に移ったとされる平淡な歌風は、新しい和歌の規範として、中世の歌人たちから尊重されることになるのである。『新勅撰和歌集』は現在、最終的な精撰本の写しとして冷泉家旧蔵本や桂宮家旧蔵本などが伝存しているが、永青文庫本は精選されてゆく途中の本文を伝える写本として注目される一本である。〔Ⅱ〕は、その編集作業をうかがわせる一例証である。恋愛の初期の歌を収めた巻十一（恋一）の部分で、

あひ見てもさらぬわかれのあるものをつれなしとて
もなになげくらむ

の歌頭に、「止、入恋二」と記し、作者「殷富門院大輔」の上にも、「止」とある。そして、この歌はまた、巻十二（恋二）にも入っている。最初二カ所に同一歌を入



百首哥よみ侍ける忍恋

前関白
関白左大臣

わがこひのもえてそらにもまがひなばふじのけぶりといづれたかけむ
わがこひはなみだをそでにせきとめてまくらのほかにしる人もなし

題しらず
八條院六條

わがとこのまくらもいかに思らむなみだか、らぬ夜はしななければ
あひ見てもさらぬわかれのあるものをつれなしとてもなになげくらむ

止
入恋二
千五百番哥合に

二條院さぬき

かはづなく神なび河にさくはなのいはぬいろをも人のとへかし
恋哥よみ侍けるに
殷富内院大輔

うちののびおつるなみだのしらたまのれこぼれてもちりぬ

べき哉

〔Ⅱ〕『新勅撰和歌集』下帖
巻十一（恋一）の部分。歌頭に注記がある。鎌倉初期写。
列帖装の上下2帖。縦24.5センチ、横14.4センチ。東京都・細川家永青文庫蔵。

〈包紙〉

(表) 新勅撰集
京極黄門筆并
道邊院殿御書

(裏) 文祿二年仲冬下旬感得訖

女旨(花押)

〈添状〉

新勅撰集上下加一
見候、撰者自筆無疑
絶代之靈寵(宝カ)候、何物如之
乎、觸愚眼候奈尤為
幸候、真欠無双之珍奇候、
能、可被秘藏候也、敬白
正月廿九日 亮空
徳溪軒

〔Ⅰ〕 (原文の写真は表紙にあり)

れ、後に気付いて一方を除いたのか、最初に巻十一に配列し、後に巻十二に移したかであろうが、ここはおそらく、ある時期に巻十二に移したことを示していると考えたい。殷富門院大輔の歌は、「男が冷淡だからといって、なぜ嘆くのか、たとえ逢ったところで、死別ということもある世の習いなだから」という心で、命のはかなさを観じた恋の歌である。すると、涙してやまぬ切ない恋を詠んだ一群に配するよりも、恋いつづける忍ぶ思ひの苦しさを詠じた歌群（巻十二）に配置したほうが適切と判断したものらしい。精撰本では、この一首は巻十二に配列されているのである。その他、永青文庫本には、未精撰であることを示す書き落としや欠脱補入、文字をなぞり改めた所など多く認められる。それでもその書写様態から判断して、最終の形態に近い『新勅撰和歌集』の本文であろうことはまちがいない。

さて、本書が細川家の所蔵するところとなった経緯について、少しふれておこう。永青文庫本には[I]のような三条西実隆の添状が付いていて、伝来の情報を提供している。徳溪軒なる人物については明らかにしえないが、定家自筆『新勅撰和歌集』の所持者であったと思われるこの人物宛の実隆自筆添状は、本書が疑いなく藤原定家自筆の絶品であると賞賛した内容になっている。三条西実隆は室町時代後期を83年にわたり生きた当代一流の古典学者（1455-1537）。内大臣、正二位。号聴雪、法名堯空、院号は逍遙院。古今伝授の学統を継承して、三条西家の古典学と呼べる学を樹立、

公家・武家から広く信望を集めた。能書家としても知られ、各階層のもつめに応じて多くの典籍を書写、古典文化の隆昌に果たした功績は大きい。従って、実隆のお墨付を得たこの『新勅撰和歌集』の付加価値は、きわめて高いことになる。

添状の上包紙によれば、幽齋は文禄2年11月下旬に本書を感得したという。その喜びは一入のものであったらしい。翌3年4月、幽齋は祝宴を張り、歌会を催して次のように歌った。

四月廿日、定家卿の自筆新勅撰集もとめえたる竟
宴に和歌会興行し侍けるに、披書知昔
雲の上の月にまじりてえらび置しことのはみする筆
の跡かな
もしほ草かく跡したふ心のみむかしにかへる和歌の
浦波
祝
ねがはくは家に伝へんあづさ弓もとたつばかり道を
ただして
（『衆妙集』）

「雲の上の月にまじりてえらび置し言のはみする筆の跡」と詠み、公卿たる定家が撰集した『新勅撰和歌集』の自筆本であると、その意義を強調する。その宝書を手に入れた感慨が横溢している。

（あらかし ひさし 文学部教授 国文学）

講演会を開催

中央館では、館員研修のため平成8年1月16日に近藤禎禎男氏（東京大学附属図書館事務部長・国立大学図書館協議会事務局長）による講演会「大学図書館の諸問題」を開催しました。

また、2月21日には熊本県大学図書館協議会事業の一環として小西和彦氏（学術情報センター教育研修部研修課長）による講演会「高度情報化キャンパスにおける教育研修」を開催し、県内8機関41名の参加がありました。



学術情報システム運用開始



左からテープカットを行う
医学部分館長、館長、学長、
局長、薬学部分館長



去る平成3月19日(火)附属図書館館長室で学術情報システム運用開始を祝うテープカット式が行われ、本格運用に向けて動きはじめました。これは本学ネットワークK U I C上で様々な学術情報を提供するというこれからの附属図書館のメインサービスの1つとなるものです。

今回提供される2つのデータベースサービス Medline (生命科学分野) と Chemical Abstracts (化学分野) は共に本学でのリクエストがきわめて高かったコアデータベースです。

今後、附属図書館では新聞記事情報、百科事典、英英辞書などの提供も企画し準備を進めています。

遡及入力を実施

附属図書館では昨年度、学内での予算措置を受け、遡及入力を実施しました。入力対象は、図書館システムが電算化される以前(昭和62年度より前)の研究室資料です。

入力については、学術情報センターの総合目録データベースへ登録すると同時に本学の目録データベースへ登録をしました。これにより、今回遡及入力を行った資料はOPAC(オンラインによる利用者目録)からの検索が可能となります。

今回は、6名(1日3名)の遡及入力要員を確保し、法学部図書室所蔵の和図書を対象に実施しました。入力状況は下表のとおりです。

	作業日数	登録件数	累積件数
7月	15	614	614
8月	18	2,555	3,169
9月	16	1,403	4,572
10月	17	1,949	6,521
11月	17	1,822	8,343
12月	11	1,272	9,615
1月	13	1,330	10,945
2月	15	1,969	12,914
3月	16	1,858	14,772

※作業日数合計 138日 (情報管理課 目録係)

休日開館を試行的に実施

図書館では、従来土曜日も開館していましたが、更にこの5月から試行的に日曜日、祝日も開館することになりました。

学生、教職員へのサービス拡大、又生涯学習機関としての役割を少しでも果せるものと考えています。

ご利用をお待ちしています。

詳細は以下のとおりです。

開館する図書館

中央館、医学部分館、薬学部分館

開館日

休業期間を除く日曜日、国民の祝日

開館時間

中央館 10:00-16:00

医学部分館 9:00-15:00

薬学部分館 9:00-15:00

主なサービス

中央館 閲覧、返却、目録検索等

医学部分館 閲覧、貸出、返却、目録検索等

薬学部分館 閲覧、貸出、返却、目録検索等

但し、学外の方は閲覧のみとなります。

(情報サービス課)

— 学術情報提供システム紹介 —

MEDLINE I

3月19日より学内ネットワークによるサービスが開始された医学文献情報 Medline について、その接続法と検索手順についてご紹介します。Medline を利用するには、3種類（Windows 専用クライアント、telnet 接続、WWWブラウザ）のインターフェースが用意されています。今回は Windows 専用クライアント、telnet 接続からの利用を紹介します。

Medline 接続手順

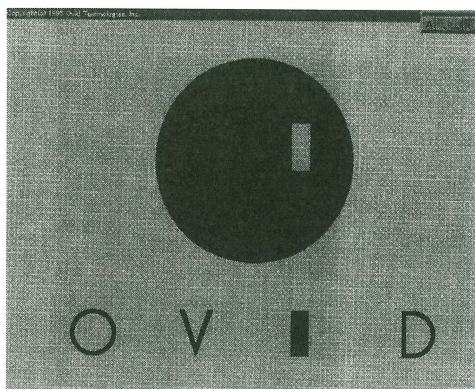
利用にあたってはまずCD-ROMサービス利用申請書（医学部分館整理係備付）を提出して、ログインIDを取得してください。原則として利用は学科（講座・研究室）単位です。

```
mget /export /home /ovidz /*.*
```

↓
 ↓ を押しながら9個のファイルを転送します。
 Transfer complete. と表示されたら転送成功。

```
bye
```

Windows 専用クライアント



4. PCに転送したクライアント用プログラム中のファイル setup.exe を起動し、画面の指示にしたがってセットアップします。
 （ポート番号は210を使用）

— 実行 —

1. Ovid クライアントアイコンをダブルクリックします。
2. ログイン名とパスワードを入力して検索画面に入ります。



— インストール —

1. あらかじめPCにクライアントプログラム用のディレクトリを作成しておきます。

例：DOS/V機はc:\ovidz、98機はa:\ovidz

2. ftpでホストaqua.medic.kumamoto-u.ac.jp (133.95.81.202)にアクセス。

例：>ftp 133.95.81.202

User(133.95.81.202:(none)):ログイン名

Password:パスワード (表示はされません)

↓

230 User ログイン名 logged in. と表示されたらログイン成功。

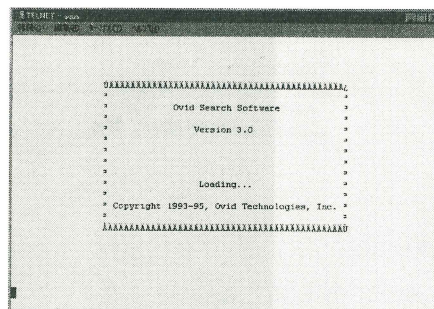
3. ホストのクライアント用プログラムをPCに転送します。

例：bin

lcd c:\ovidz ...DOS/V機

(lcd a:\ovidz) ...98機

telnet (vt100 モード)



— 実行 —

1. telnet でホスト aqua.medic.kumamoto-u.ac.jp (133.95.81.202)にアクセス。

例：>telnet 133.95.81.202

login:ログイン名

Password:パスワード (表示はされません)

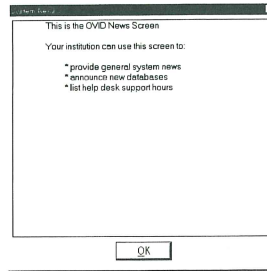
↓

自動的に検索画面が起動します。

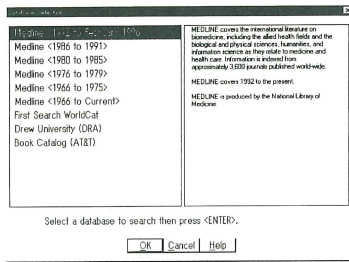
Medline 検索手順

検索の流れを Windows 専用クライアント画面を使って紹介します。(telnet接続についても基本的には同じです。)

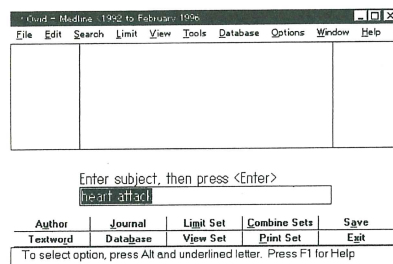
接続に成功するとニュース画面が表示されます。データ更新のため利用できなくなる日時等が表示されますので、注意してご覧ください。



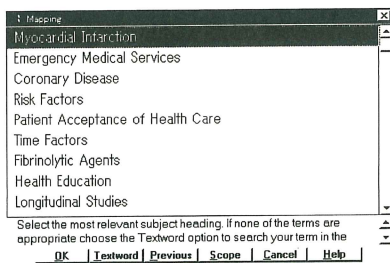
データベース選択画面が表示されます。目的の検索対象年代を選択してください。



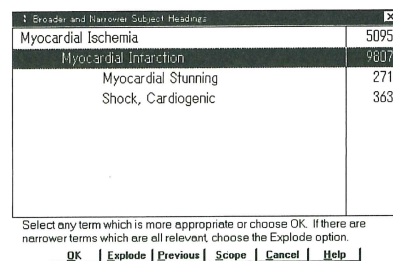
基本検索画面が表示されます。画面上部のプルダウンメニューにすべての機能が含まれていますが、よく使う機能は、画面下部の機能ボタンにも表示されます。検索したい主題キーワードを入力します。



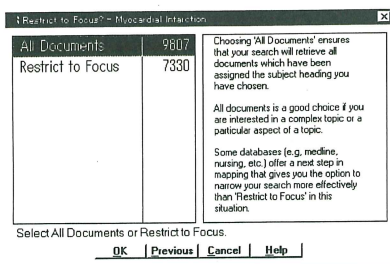
入力したキーワードから Medline を検索する上で最適な統制語 (Medical Subject Headings : MeSH語) に導かれます。適当な MeSH語を選択してください。



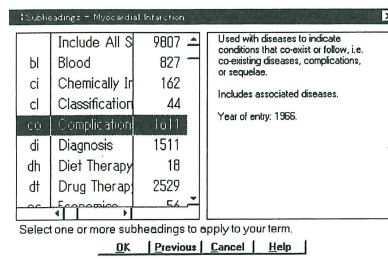
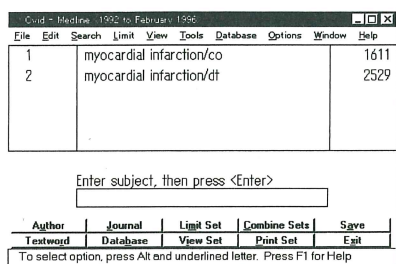
選択したMeSH語の上位語・下位語が表示されます。ここでも適当なMeSH語を選択してください。



検索語について論じている全ての文献 (All Documents) か、検索語を主論点とする文献 (Restrict to Focus) かを選択します。

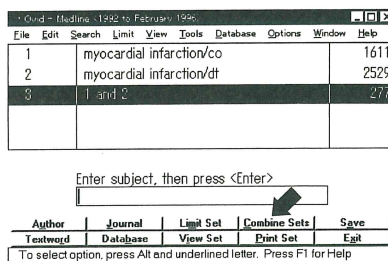


サブヘディングと呼ばれる統制された形容語句でさらに限定します。

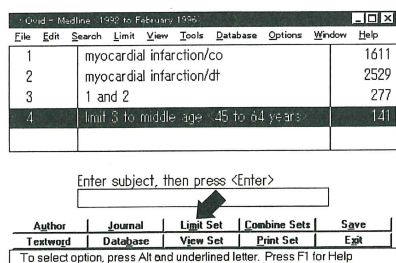


これで基本検索画面にもどり、検索した文献集合ができました。同様の要領で検索をくりかえします。

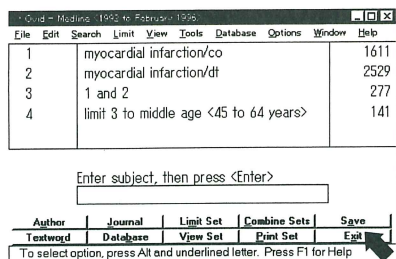
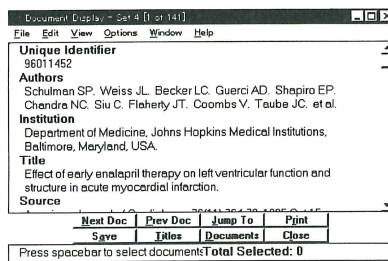
検索した集合どうしを掛合わせたいときには Combine Sets ボタンを使います。



検索した結果は View Set ボタンを押すと1件めから詳細表示されます。また一覧表示したいときは View メニューから title を選びます。
(ダウンロードしたいときは Save ボタンを、プリントアウトしたいときは Print Set ボタンを使います。)



さらに絞り込みを行いたいときには Limit Set ボタンを使います。



検索の終了。
Exit ボタンをクリックします。

(医学部分館 整理係)

図書館委員の交替

平成8.3.31	退任	文学部	伊原 信一
〃	〃	教育学部	中村 青史
〃	〃	理学部	小畑 正明
〃	〃	教養部	福澤 清
〃	〃	医療短大	園田 志津子
平成8.4.1	就任	文学部	木下 尚子
〃	〃	教育学部	中本 環
〃	〃	理学部	松坂 理夫
〃	〃	教養部	樋口 康夫
〃	〃	医療短大	石丸 靖二

人事異動

平成8.4.1	情報管理課長 小川 正明 (鹿児島大学附属図書館 情報管理課長)	平成8.4.1	情報管理課受入係 北野 香代子 (情報管理課目録係)
〃	情報サービス課長 山根 文夫 (鳴門教育大学教務部 図書課長)	〃	情報管理課目録係 井 真祐美 (情報サービス課学術雑誌係)
〃	図書館専門員 飯田 典子 (情報サービス課参考係長)	〃	情報サービス課閲覧係 城 倫子 (薬学部分館図書係)
〃	情報管理課受入係長 成田 和則 (情報管理課目録係長)	〃	医学部分館運用係 市花 恵津子 (情報サービス課閲覧係)
〃	情報管理課目録係長 甲斐 重武 (学術情報センターデータベース課 数値・画像データベース係長)	〃	薬学部分館図書係 矢野 亜希子 (医学部分館運用係)
〃	情報サービス課参考係長 浦田 博臣 (医学部分館整理係長)	〃	茨城大学附属図書館 事務部長 矢野 正博 (情報サービス課長)
〃	情報サービス課学術雑誌係長 福島 勲 (薬学部分館図書係長)	〃	京都大学附属図書館 総務課長 石井 保廣 (情報管理課長)
〃	医学部分館整理係長 阿陪 光恭 (八代工業高等専門学校 庶務課図書係長)	〃	滋賀医科大学教務部図書課長 松藤 典生 (情報サービス課課長補佐)
〃	薬学部分館図書係長 梅尾 勝征 (情報管理課受入係長)	〃	八代工業高等専門学校 庶務課図書係長 永村 典子 (情報サービス課参考係)
〃	情報管理課総務係総務主任 石井 義信 (附属病院薬剤部 医薬品管理室主任)	〃	放送大学学園総務部 調査管理課情報第二係長 秋吉 陽一郎 (情報サービス課 閲覧係)
〃	情報サービス課閲覧係 野元 剛二 (経理部経理課共済組合係)	〃	工学部用度係調達主任 淡路 純 (情報管理課総務係 総務主任)
〃	情報サービス課参考係 高木 貞次 (情報管理課受入係)	平成8.3.31	定年退職 草野 隆夫 (図書館専門員)

日誌 (平成8.1.1~4.30)

- 1.16 東京大学近藤事務部長来学講演会
〃 古典籍研修会
- 1.17 平成7年度国立大学附属図書館事務部長会議
~18 (於東京)
- 1.26 附属図書館係長会議
- 2.6 古典籍研修会
- 2.17 電算機機器調整 (DB拡張作業)
~18
- 2.19 学術情報提供システム説明会 (医学部分館)
- 2.20 古典籍研修会
〃 附属図書館係長会議
- 2.21 学術情報センター小西研修課長来学講演会
- 3.5 古典籍研修会
- 3.19 学術情報提供システム オープン・セレモニー
〃 古典籍研修会
- 3.28 附属図書館係長会議
- 4.18 古典籍研修会
- 4.23 第26回九州地区国立大学図書館協議会
(於長崎)
- 4.24 第47回九州地区大学図書館協議会
(於長崎)

東光原 No.13 図書館ホームページの公開と
WWW版OPAC (9頁) に誤りがありました。
お詫びして訂正いたします。
[html://www.lib.kumamoto-u.ac.jp](http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp) (誤)
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp> (正)

後記: 「東光原」って「トウコウゲン」と読むんだね。
そう知ったのは、図書館に入ってから大分たった梅雨
の一日だったことを思い出します。以来3年間、今年
もまた夏の号を発刊できる運びになろうとは……。 (康)

* 誌名: 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学
校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。

東光原一熊本大学附属図書館報一第14号
平成8年6月
編集発行 熊本大学附属図書館
〒860 熊本市黒髪2丁目40番1号
TEL (096) 342-2273
FAX (096) 345-9087